2026年11月13日

各　位

会　社　名　株式会社インフォネットグループ
代表者名　代表取締役社長　東間　大
（コード番号：4444　東証グロース）
問合せ先　取締役　南嶋　将人
（TEL.　03－5221－7591）

2027年３月期第２四半期決算説明動画及び書き起こし記事公開に関するお知らせ

当社は、2027 年３月期第２四半期決算説明会を動画配信で公表いたしました。当該説明内容について、株主ならびに投資家の皆様への公平な情報開示の観点から、書き起こし記事として公開することといたしましたので、お知らせいたします。

記

１．2027年３月期第２四半期決算説明資料（書き起こし）の概要
当資料は、本日公開しました2027年３月期第２四半期決算説明会動画の内容を書き起こし資料としてまとめ、その内容を共有するものであります。なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

２．決算説明会について
決算説明動画URLを以下に記載しておりますので、併せてご確認いただきますようお願い申し上げます。

公開日時：2026年11月13日（金）16：00～
登壇者：代表取締役社長　東間　大
決算説明会動画URL：https://irp-system.net/presenter/?conts=01m4fkzesk06fbqwnv69kxw335

その他のIR情報は当社IRサイトよりご覧いただけます。
https://www.infonet-group.co.jp/ir/

以　上

2027年3月期 第2四半期
決算説明レポート

CONTENTS

1. 会社概要、事業紹介
2. 2027年3月期 第2四半期 決算概況
3. TOPICS

SUMMARY

▶ 会社概要、事業紹介

- 10月1日から社名を株式会社インフォネットグループに変更し、持株会社体制へ移行
- 私たちは何者か ― グループブランドの再定義
- 提供価値を具現化する、5社の役割を明確化
- 事業領域を「DIGITAL COMMUNICATION」と「DIGITAL INNOVATION」に整理

▶ 2027年3月期 第2四半期 決算概況

- 第2四半期累計の売上高は1303百万円（前年同期比418百万円増）、EBITDAは21百万円（同46百万円増）、営業損失は80百万円（同32百万円改善）
- 増収の主因は第2四半期におけるアクティブリテック社の子会社化
- 営業損益は累計で損失だが、第3四半期以降にアクティブリテック社の利益貢献を見込むとして、通期計画の数値は変更せず進める意向

▶ TOPICS

- インフォネット社は、CMS「LENSAhub」のセキュリティ対策を紹介
- アクティブリテック社は、独自開発の３DCGビューワー「ActiveStudio」を紹介
- アイアクト社は、『Cogmo Enterprise 生成AI』の導入実績を紹介



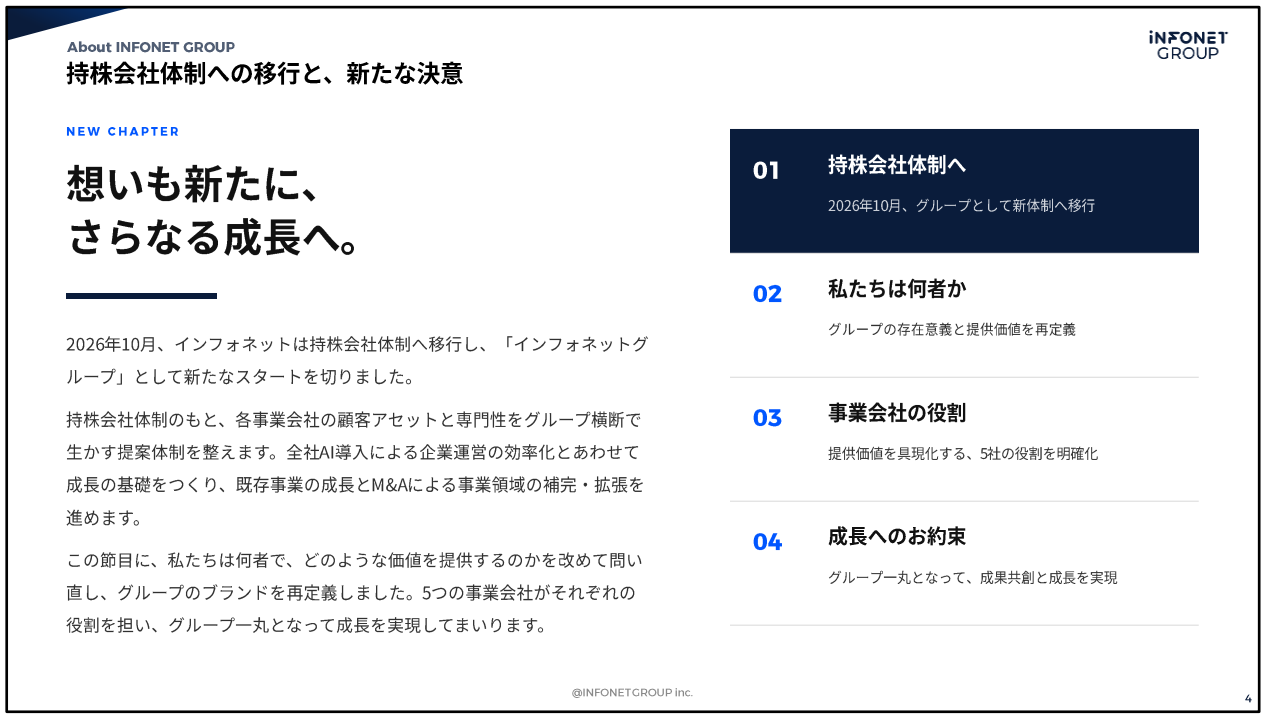
株式会社インフォネットグループ決算説明会のご説明をさせていただきます。



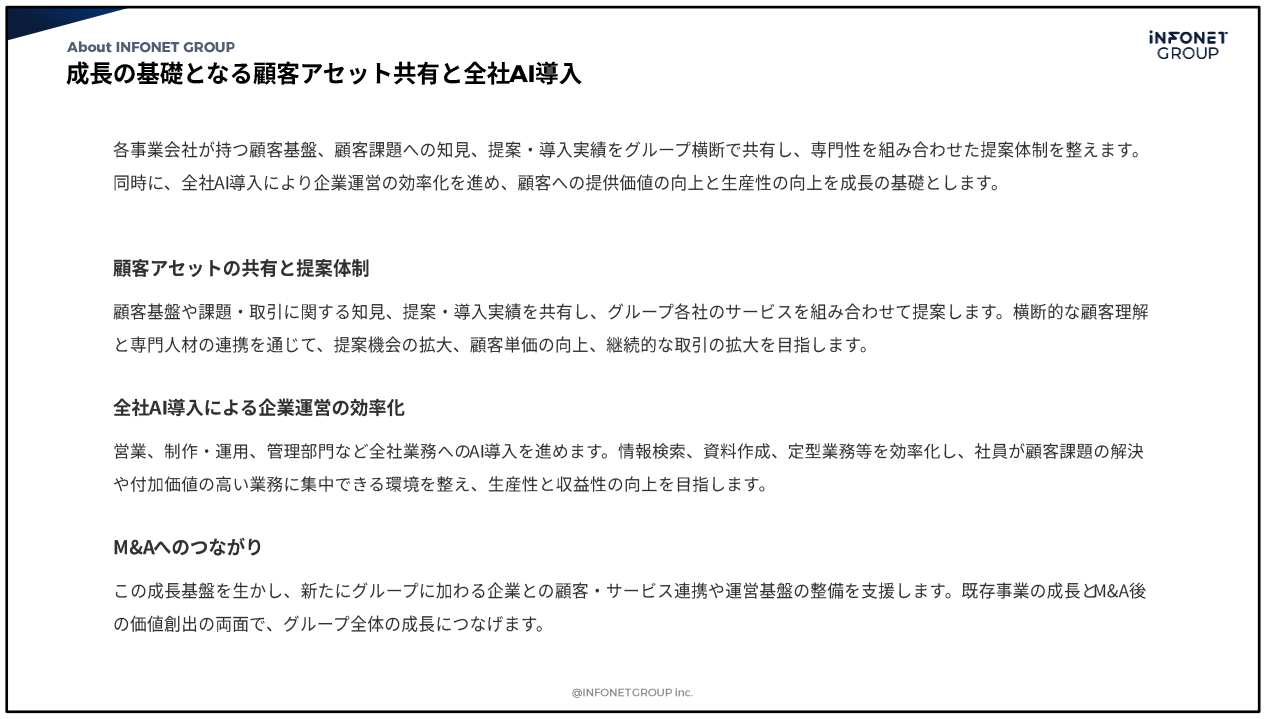
私、代表取締役社長の東間 大と申します。皆様よろしくお願いいたします。



まず会社概要、事業紹介から始めさせていただきます。



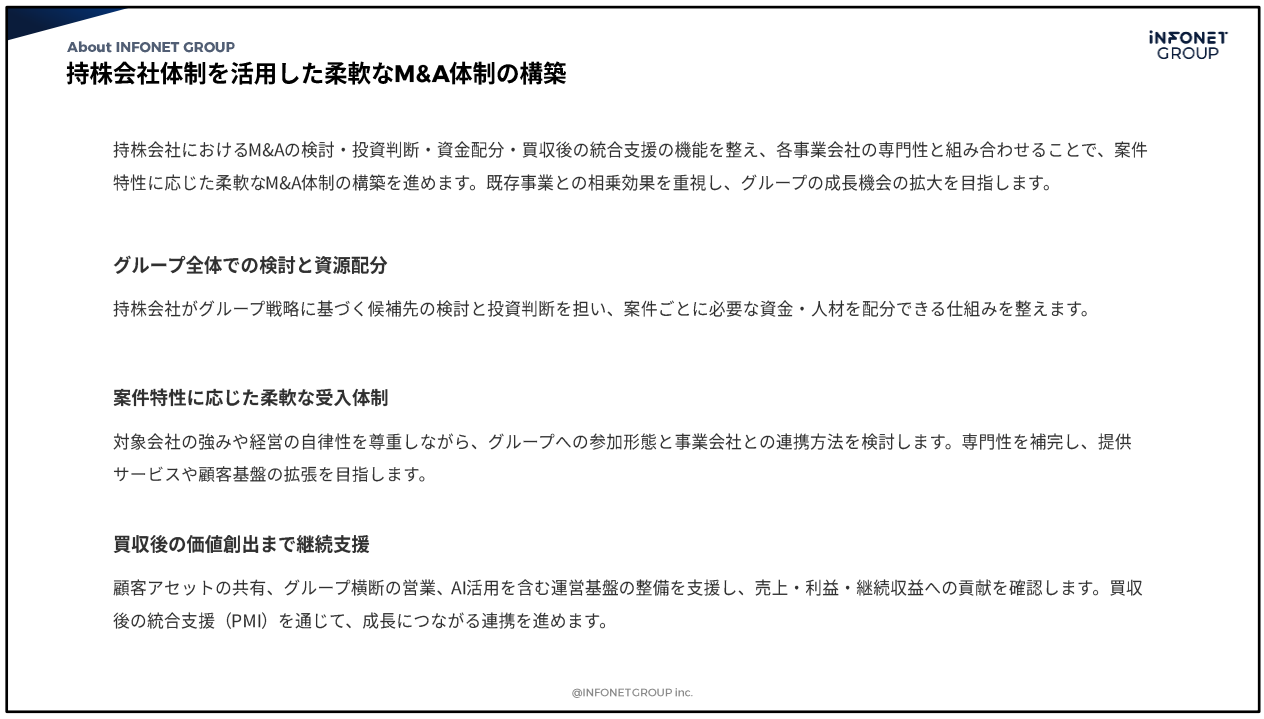
株式会社インフォネットグループは、2026年10月1日より社名を変え、持株会社体制へ移行してスタートしております。 新しいコンセプトは、「想いも新たに、さらなる成長へ。」です。
持株会社体制のもと、各事業会社と顧客アセットを整理し、専門性をグループ横断で生かす提案体制を整えます。 さらに、全社AI導入による企業運営の効率化をあわせて進めていくことでM&A事業領域の補完・拡張を進め、グループ一丸となって成長を実現してまいります。



成長の基礎となる点について、2つ挙げております。

まずは顧客アセットの共有です。 提案体制を整えることも含め、現在、弊社は300人以上の従業員数となり、グループが大きくなっております。 こちらの顧客基盤の共有と提案体制を整えます。

もう1点が、全社AIを導入することによる企業運営の効率化です。 これを行うことによってM&Aを強くこの成長基盤に乗せていくことをひとつのコンセプトにしております。



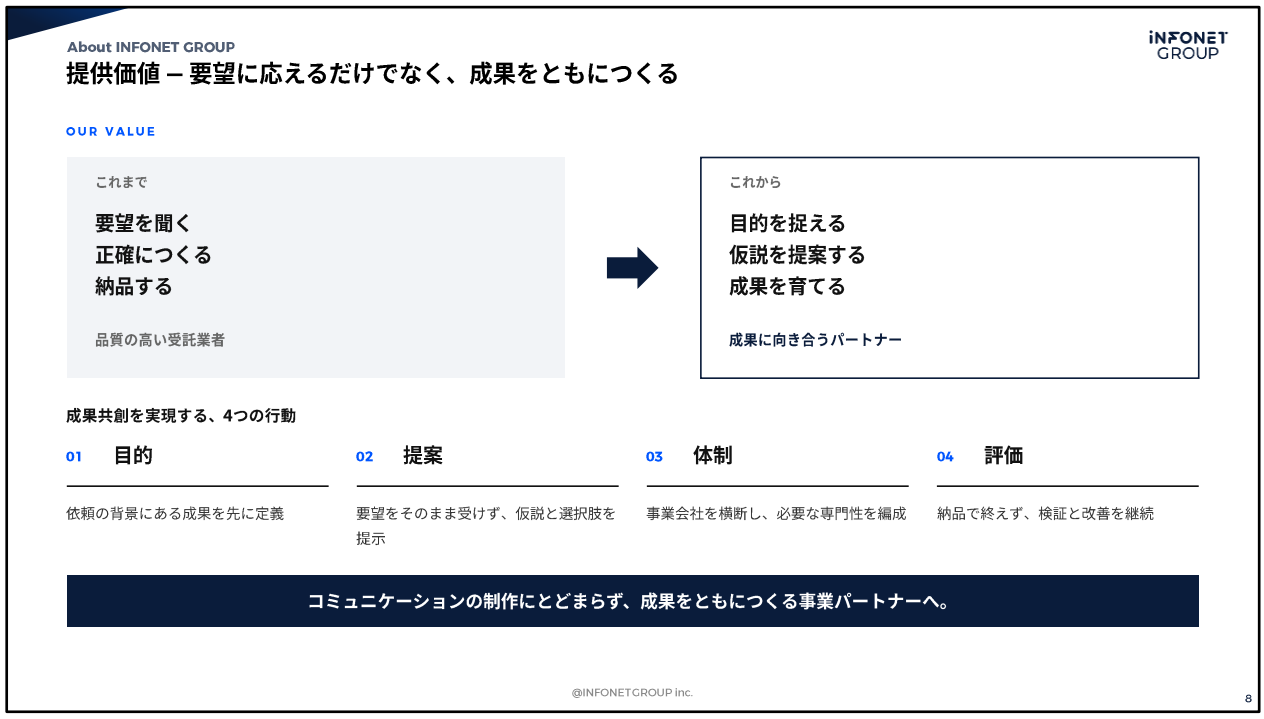
持株会社体制を活用したM&A体制の構築についてです。
社員数がかなり増えておりますので、グループ全体での検討と人員も含めたアセットの資源配分を考えながら進めていきます。

M&Aについても、案件特性に応じた柔軟な受入体制が整えられます。

さらに、AIあるいは管理部のガバナンス体制の強化によって、価値創出までの統合支援（PMI）を進めていきたいと考えております。



まず、グループとしてのブランディングの再定義を進めております。
ひとつは「私たちは何者か」ということに着目し、組織の意思を伝える
成果共創企業であるということをコンセプトにしています。



今までのバリューとしては、コンテンツマネジメントシステムを主体としたWebサイトの制作会社、あるいはRAG型生成AIやAI検索をもつAIサービスの会社という位置づけでした。要望を聞く、正確につくる、納品するという、言われたことをきちんとするという企業でした。

しかし、これからは要望に応えることに加えて、成果を共に作る事業パートナーでありたいと考えています。目的を捉え、仮説を提案し、成果を育てることで、一緒に作っていくことを提供価値としていきます。



これに伴い、事業の役割で各子会社を分類をしています。

ひとつは「DIGITAL COMMUNICATION」という分野です。

コーポレートサイト、 HR・ PR サイトの株式会社インフォネット。
ブランディングに特化した株式会社ブランドデザイン。
そして今回の改編によって IRコミュニケーション を強化した
株式会社i-MediX。

これで「DIGITAL COMMUNICATION」という分野で戦っていく準備ができていると考えています。

一方で、今後進化させていく分野として、「DIGTAL INNOVATION」というグルーピングを考えています。
AI のテクノロジーを主体とした株式会社アイアクト。
7月1日から当社グループに参画した株式会社アクティブリテックは、CG、 VR、デジタルツインといった新しい分野の進化ができる分野を担います。

この2つのグループをもとに、クライアントと成果を共創していく体制を整えております。



About INFONET GROUP

各事業会社の役割と主な提供サービス

INFONET GROUP

ROLES

領域	事業会社	グループにおける役割	主な提供サービス
Digital Communication 伝える	株式会社インフォネット コーポレート／HR・PRコミュニケーション	組織の意志を、Webサイトを中心としたデジタル接点で伝わる形にする	CMS（infoCMS／LENSAhub）、Webサイト構築・運用、採用ブランディング、SEO・Web広告
	株式会社ブランドデザイン ブランディングコミュニケーション	組織の意志を、ブランドの言葉・ビジュアル・体験として設計する	ブランド戦略設計、コンテクスト（文脈）設計、ビジュアル・UX設計
	株式会社i-MediX IRコミュニケーション	企業の価値と成長戦略を、投資家に伝わる言葉と資料にする	決算説明資料・中期経営計画説明資料、統合報告書、IRサイト診断
Digital Innovation 進化させる	株式会社アイアクト AIテクノロジー	組織に蓄積された知識を、AIで探せる・使える仕組みに進化させる	Cogmoシリーズ（AI検索、RAG型生成AI、AIチャットボット）、AI導入コンサルティング
	株式会社アクティブリテック CG・VR・デジタルツイン	空間と体験を、3DCG・XR・デジタルツインで可視化し進化させる	建築CG・アニメーション、VR・ARアプリケーション、デジタルツイン、システム開発

※Digital Communication／Digital Innovationは、当社グループのブランド上の事業区分です。報告セグメントの変更については、所定の手続き完了後に改めてお知らせいたします。

@INFONETGROUP inc..

各事業会社の役割と主な提供サービスについてです。

株式会社インフォネットは、Webサイトを中心としたデジタル接点で伝わる形にする。

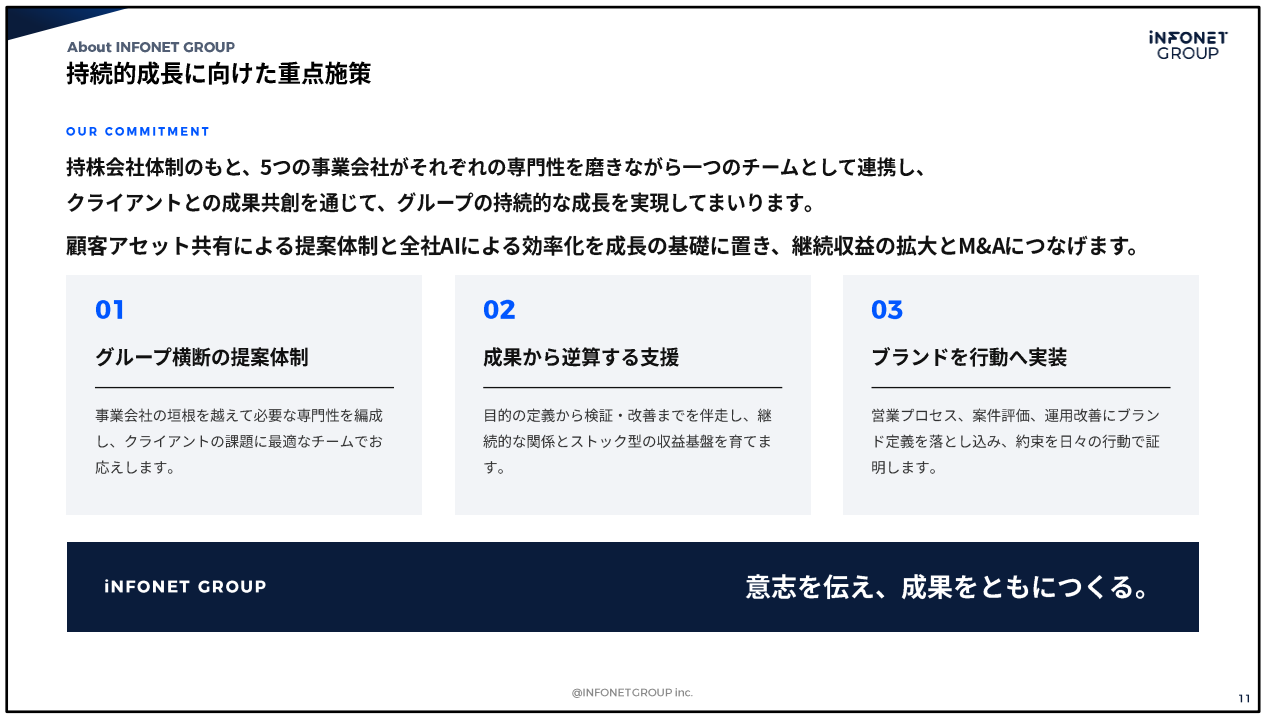
株式会社ブランドデザインは、ビジュアルブランドの設計に特化。

株式会社i-MediXは、IRを主とした企業価値と成長戦略の投資家向けの資料、あるいはインフォメーションの作成。

株式会社アイアクトは、 AI をベースとしたCogmoシリーズ、特にAI検索、RAG型生成AI、AIチャットボットなどのコミュニケーションツールの開発の強みを活かす。

株式会社アクティブリテックは、CG、3D、デジタルツイン、XRといった今後非常に伸びるであろう分野のイノベーションを進める。

各事業会社についてはこのように考えております。



持続的な成長に向けた重点施策を３つ挙げております。

１点目は、「グループ横断の提案体制」です。営業リソースを共有化することで、グループ横断で提案ができるということを考えています。

２点目は、「成果から逆算する支援」です。我々は成果共創企業ということを挙げておりますので、成果を逆算することでコンサル的に参画し、上流から支援するのは一体何かということを考えていきます。

３点目は、「ブランドを行動へ実装」です。意思を伝えて成果を共に作ることを、全グループの役職員が進めていこうと考えております。



会社概要です。

社名は2026年10月1日より、株式会社インフォネットグループになりました。私、東間 大が代表取締役社長を務めます。

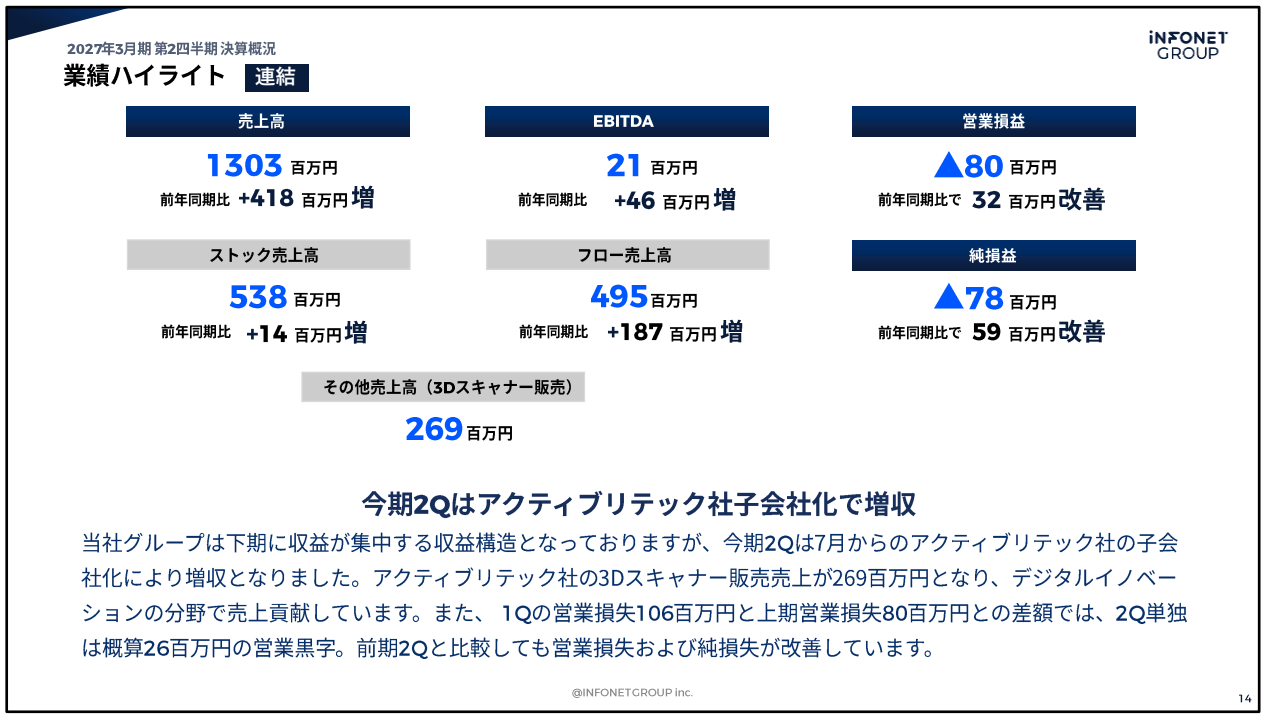
本社は新橋で、設立は2002年です。

証券コードは東証グロースの4444で現在上場しております。

連結では241名の社員数ですが、パート・アルバイトの方を加えると350人程度の陣容になっております。



2027年3月期 第2四半期の決算概況についてご報告します。



第2四半期の業績ハイライトです。

売上高ですが、 1303百万円となっております。
私どもの重要な指標として考えておりますEBITDAですが、21百万円です。 前年同期比で46百万円増となっています。
営業損益はマイナス80百万円です。 前年同期比で32百万円の改善が見られております。
今期２Qは、アクティブリテック社の子会社化による増収が一番大きなトピックです。
２Q単独では概算26百万円の営業黒字ということになっており、前期２Qと比較しても営業損失および純損失は大きく改善しております。

2027年3月期 第2四半期 決算概況

業績サマリー 連結

受注・売上計上の多くを３Q以降に想定しており、３Q累計からの営業黒字化を見込んでおります。

（単位：百万円）	2026年3月期2Q		2027年3月期2Q			
		売上高比		売上高比	増減額	前年同期比
売上高	884	100.0%	**1303**	100.0%	**418**	47.3%増
売上原価	574	65.0%	**912**	70.0%	**338**	58.8%増
売上総利益	310	35.1%	**390**	30.0%	**80**	25.8%増
販管費	422	47.8%	**470**	36.1%	**48**	11.3%増
営業損益	▲112	▲12.7%	**▲80**	▲6.2%	**32**	―
経常損益	▲114	▲12.9%	**▲84**	▲6.5%	**31**	―
特別利益	0	―	**18**	1.4%	**18**	―
特別損失	0	―	**4**	0.4%	**4**	―
当期純損益	▲137	▲15.5%	**▲78**	▲6.0%	**59**	―

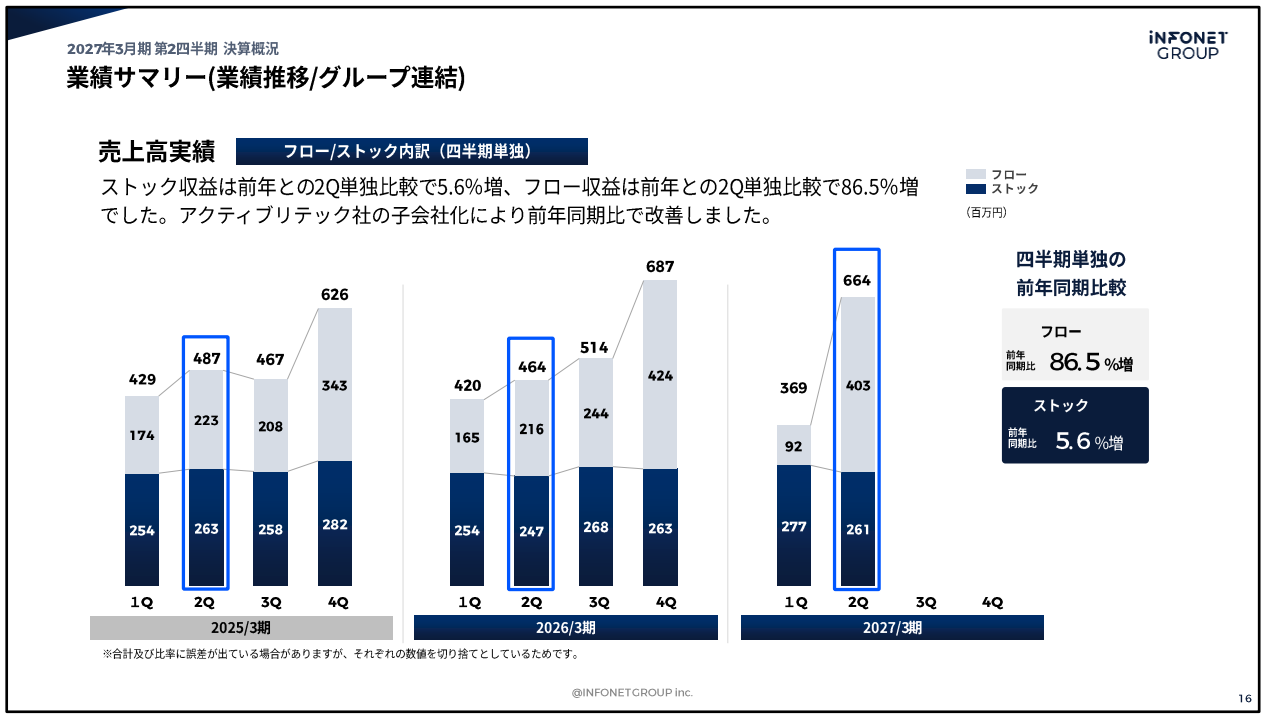
※合計及び比率に誤差が出ている場合がありますが、それぞれの数値を切り捨てとしているためです。

@INFONETGROUP inc.

15

2026年と2027年の２Qまでの比較の数字です。

販管費が特に大きくなっておらず、営業損失も減ってきているということで、
ほぼすべての数字において改善をしています。
特に売上高は47.3%増、 粗利は25.8%増となっています。



業績の推移です。

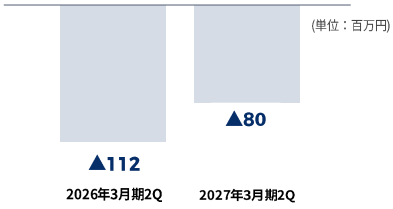
グラフが 2025年3月期、2026年3月期、2027年3月期の四半期毎の比較となっています。 今期２Qはアクティブリテック社の子会社化によって、前年同期比で大きく改善をしております。
2026年3月期４Qが 687百万円と、４Qが一番大きい数字なのが毎年恒例ではあるのですが、 2027年3月期２Qにおいては、すでにこの数字に近づく状態になっております。

2027年3月期 第2四半期 決算概況

営業損益実績(累計比較)

グループ全体

営業損失が約32百万円縮小



営業損失はグループ全体で▲80百万円（営業利益率▲6.2%）。

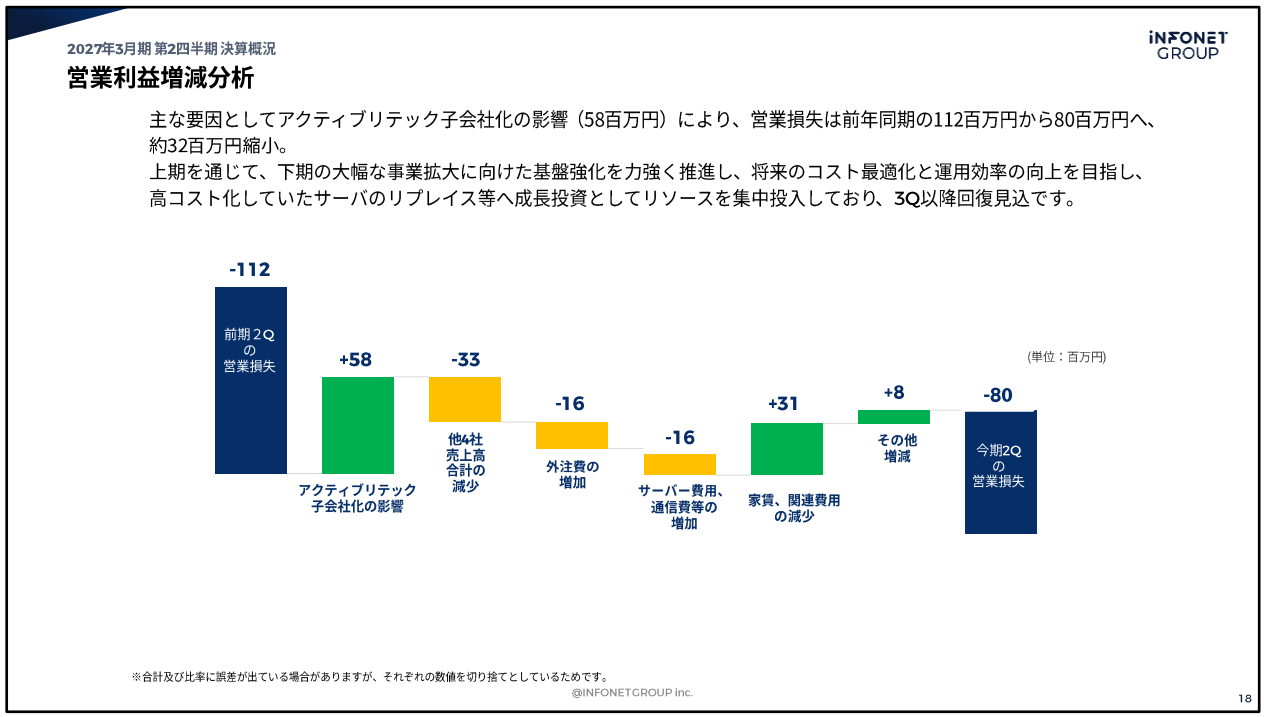
前期2Qから営業損失が32百万円縮小しました。
要因は7月から連結子会社化したアクティブリテック社による利益貢献です。
3Qからグループ全体で営業利益は回復見込です。

※合計及び比率に誤差が出ている場合がありますが、それぞれの数値を切り捨てとしているためです。

@INFONETGROUP inc.

営業損益についてです。

グループ全体としては、2026年3月期２Qではマイナス112百万円の営業損失でしたが、2027年3月期2Qはマイナス80百万円ということで、32百万円の損失幅の縮小となりました。 こちらも同様にアクティブリテック社からの利益貢献ということが大きな要因です。

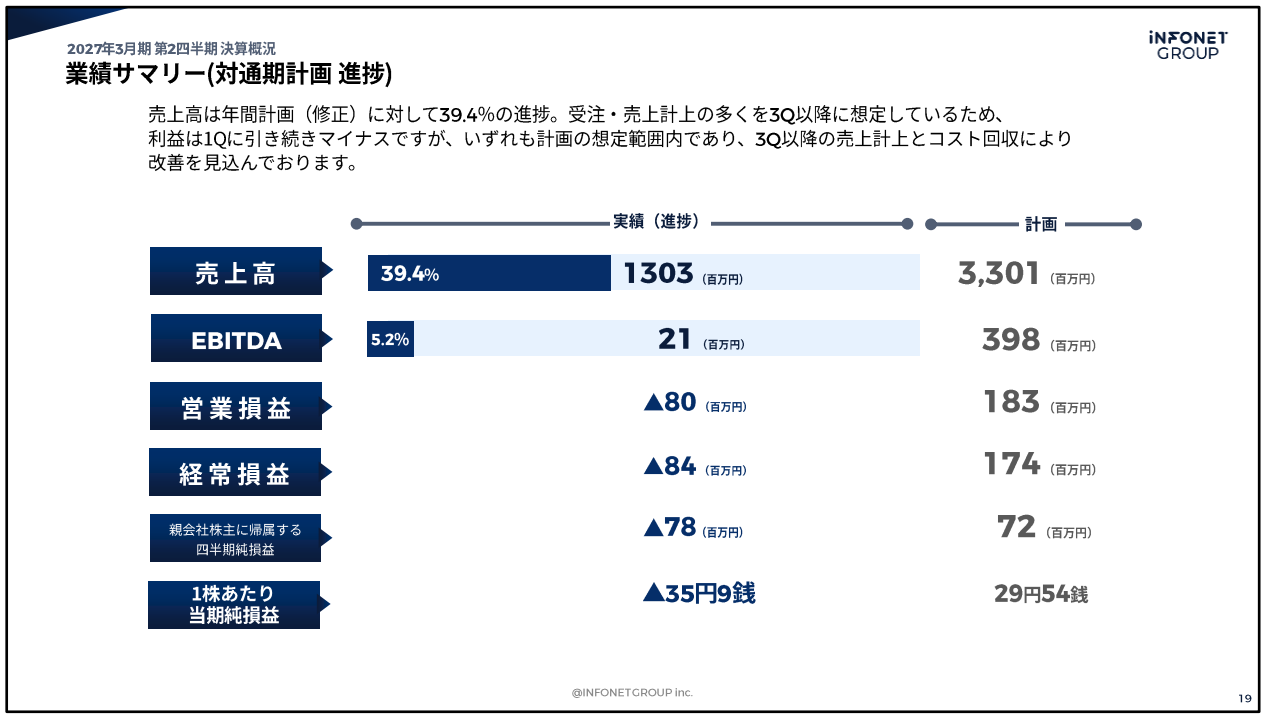


グループ全体での営業利益増減分析です。

前期２Qがマイナス112百万円でしたが、今期２Qはマイナス80百万円となっています。

まず、アクティブリテック子会社化の影響で58百万円の改善がありました。それ以外に、他4社の売上高合計が33百万円減少などがあります。

サーバー費用や外注費が少し増えていますが、一方で家賃、関連費用などの販管費を30百万円以上減らしたというところも含めて、トータルでは30百万円を超える回復をしています。



対通期計画です。

通期では今期計画は3,301百万円の売上高を目指しております。半期が終わったところで13百万円を超えておりますので、実績としては39.4%まで進捗しております。

EBITDAは398百万円で、まだ5.2％です。

営業損益等々に関しては、まだマイナスという状況ですが、アクティブリテック社が３Q以降は利益貢献をすることになりますので、こちらの計画数値は変わらず進めていきたいと考えております。


INFONET GROUP
CONTENTS
01. 会社概要、事業紹介
02. 2027年3月期 第1四半期 決算概況
03. TOPICS
@INFONETGROUP inc.
20

トピックスです。

2027年3月期 第2四半期 TOPICS

強固なセキュリティでWebサイトを守る「LENSAhub」

インフォネット社が提供するLENSAhubは、誰でも簡単にプロフェッショナルなWebサイトを作成できるCMSです。アクセスに強い、セキュリティに強い、運用に強い、小規模サイトからエンタープライズ系のサイトまで企業・団体のWebサイト担当者をフルサポートしています。

近年、企業のWebサービスを狙ったサイバー攻撃に関する報道が増えています。インフォネットはお客様に安心してLENSAhubをご活用いただくため、さまざまなセキュリティ対策を行っております。



安心してご利用いただくために、LENSAhubが行っているセキュリティ対策

■ 静的CMSという構造によるリスク低減
LENSAhubは静的CMSを採用しており、サーバーサイドでのプログラム処理を最小化した構造です。
動的なウェブアプリケーションと比較して、不正プログラムの設置やSQLインジェクション等の特定の攻撃手法に対して、構造的にリスクが低い設計となっています。

■ システムの継続的な監視と脆弱性管理
システムの稼働状況および外部からの不審なアクセスについて継続的に監視を行っています。
また脆弱性情報を随時確認し、必要に応じてパッチ適用等の対応を実施しています。

■ WAFによる不正アクセス対策
LENSAhubの管理画面にはWAF（Web Application Firewall）が標準装備されています。
公開サイト側への不正アクセス対策を強化したい場合は、専用サポートで相談可能です。

@INFONETGROUP inc.

まず、弊社グループの基幹企業である事業会社としてのインフォネット社ですが、「LENSAhub」というCMSを紹介いたします。
近年、非常に増えているWebサービスへのサイバー攻撃、あるいはハッキングへの対策を強化しているCMSです。 特に静的CMSという構造によりリスクを低減できるコンテンツマネジメントシステムです。
さらに、システム的な継続監視や WAFによる不正アクセス対策といった分野で強いCMSですので、より皆様にご提供していきたいと考えております。

2027年3月期 第2四半期 TOPICS

独自開発 3DGSviewer「ActiveStudio」

アクティブリテック社は、3D Gaussian Splatting（3DGS）で再現した空間データを管理・共有するプラットフォーム「ActiveStudio」を提供しています。国内サーバーでのデータ保管やリンクによる共有に加え、独自のCG技術を活用した空間シミュレーションに対応。製造業やプラント、建設、不動産など、幅広い業界における現場情報の共有と空間データの活用を支援します。



ActiveStudioの特徴

■ 国内サーバーで、大切な3Dデータを保管・管理
スキャンした空間データを国内サーバーに保存。データの保管先を明確にし、機密性の高い情報を扱う製造業やプラント業界などのデータ管理・活用を支えます。

■ リンクひとつで空間を共有し、コミュニケーションを円滑に
リンクを送るだけで、社内外の関係者に3D空間を共有。離れた場所にいても同じ空間を見ながら確認・相談でき、写真や図面だけでは伝わりにくい現場の状況も直感的に伝えられます。

■ 独自のCG技術で、3DGS空間に導入後のイメージを再現
現実の空間を再現した3DGSに、設備や家具などのCGモデルを配置。新たな設備の導入やレイアウト変更を視覚的にシミュレーションし、関係者とのイメージ共有や計画の検討に役立てられます。

■ サムネイルで一覧表示し、複数の空間を直感的に管理
保存した3D空間をサムネイルで確認でき、見た目から目的のデータをスムーズに探せます。複数の施設や現場のデータも把握しやすく、日々の確認・共有を効率化します。

ActiveStudioは、3D空間の保管・管理から共有、CGを活用したシミュレーションまでを支えるプラットフォームです。
スキャンした空間を日々のコミュニケーションや計画検討に活かし、現場の業務改善とデジタルツインの活用を後押しします。

@INFONETGROUP inc.

次に「ActiveStudio」です。 これは2Qにジョインしたアクティブリテック社のプラットフォームです。CG、特に撮影した独自のCGなどを保管したり、空間を表現をしたりして、独自のCG、3D空間を管理・共有するスタジオシステムになります。CGを活用したシミュレーションやスキャンしたデジタルツインの空間を、不動産、建設あるいはプラントなどにご提供する商材として発表しております。

2027年3月期 第2四半期 TOPICS

AIサービス事業の実績（株式会社アイアクト）

RAG型生成AIの決定版『Cogmo Enterprise生成AI』は、アイアクト社独自の工夫と９年の実績があるAI検索をベースに**「導入満足度が非常に高いChatGPTサービス」**としてご提供しています。
AI検索・RAG型生成AI・AIチャットボットなどのCogmoシリーズを通して、企業や行政のイマの改善・改革を伴走支援し、グループのサービス価値向上を牽引しています。

直近のプレスリリースにおける導入実績一例（決算期後のトピックスを含む）

2026年10月1日
金沢市公式 Web サイトに AI 検索・RAG 型生成 AI「Cogmo Enterprise 生成 AI」を導入
AI チャットボットから検索型生成 AI へのリプレイスで、運用負担の軽減と情報提供力の強化を両立

2026年9月24日
カオナビ サポートサイトにおける Zendesk 検索機能をAI 検索・RAG 型生成 AI「Cogmo」に刷新
検索精度を管理向上できる機能でさらなるユーザメリットを提供

2026年8月25日
川崎重工への「Cogmo Enterprise 生成 AI」導入成果を発表
品質関連規程の AI 検索ポータルで月間平均約 4,000 回利用を維持、他部門への横展開が進展

@INFONETGROUP inc.

最後に株式会社アイアクトのCogmo Searchです。 Cogmoのエンタープライズサービスということで、AI検索やAIチャットボットを、自治体あるいは企業様にご提供しております。以下、直近プレスリリースの導入実績です。

2026年10月1日に、金沢市公式WebサイトでAI検索・RAG型生成AIという形で導入し、運用負担の軽減を実現しております。

2026年9月24日に、カオナビ様へZendeskの検索機能でご提供させていただいております。

2026年8月25日に、川崎重工様へ「Cogmo Enterprise生成AI」の品質関連規定のAI検索ポータルという形でご提供をさせていただいております。

また、これら以外でも非常に多くのお客様に導入いただいております。



以上、2027年3月期の中間決算のご報告をさせていただきました。

皆様ありがとうございました。